



医療事務は未経験の仕事だったが
支え合う職場でスキルアップ

ホームな職場づくりに取り組んで
きました。5月からは職員向けに、
真梨子さんによる月1回の勉強会
をスタート。自身の心と向き合い、
より良好な人間関係を構築するた
めの学びの時間を設けています。
「悩みを気軽に相談できる環境
ですし、仕事以外の場面でも役立

や子どものサポートも担当しま
す。「医療事務Ⅱ机に向かうもの」
というイメージを持っていた安藤
さんにとって、現場に立つのは新
鮮な体験でした。
「仕事を通してさまざまな経験
を重ね、人生を豊かにしてほしい」
と話すのは、院長の妻であり、カ
ウンセラーとして患者のメンタル
ケアも担う佐藤真梨子さん。患者
とのかかわりはもちろん、スタッ
フ同士の円滑なコミュニケーション
にも力を入れ、明るくアット



私が選んだ職場

思いやりを届ける 医療事務の仕事

20条小児科内科クリニック
医療事務 あんどう ゆい 安藤 優衣さん(21歳)

●PROFILE

安藤 優衣さん

芽室町出身。当院がリニューアル開院した昨年4月から医療事務員として勤務し、
受付や会計業務、診察補助まで幅広い業務を担当している。

インスタグラムで見かけた求人をつきかけに、
医療事務という未経験の仕事に挑戦した安藤さん。
病院が嫌いだっただ子ども時代の経験を基に、
クリニックに訪れる子どもたちの気持ちに
寄り添う接遇で、笑顔を引き出しています。

インスタグラムをつきかけに 新しい仕事に挑戦

高校卒業後、芽室町にある家業
の飲食店を手伝いながら仕事を探
していた安藤さん。医療の世界に
飛び込むきっかけとなったのは、
知人が投稿したインスタグラムの
ストーリーでした。「リニューア
ル開院するクリニックが、スタッ
フを募集しているという内容でし
た」。未経験者歓迎の文字に背
中を押され、挑戦してみたいと応
募を決意。知人を通じて院長とつ
ながり、面接の機会を得ました。
当時、院長は東京の小児科で
診察を行っていたため、面接は
Zoomで実施。「想像していた
ような堅苦しい雰囲気ではなく、
とても話しやすかったです」と振
り返ります。フレンドリーな人柄
に触れ、「ここなら安心して働け
そう」と感じたと言います。
開院の2週間前からスタッフと

と優しく声を掛け、少しでも安心
して笑顔で帰ってもらえるよう心
掛けています。



子どもたちが安心して通院できるよう
院長の診察を補助している

「これからも変わらず、子ども
やお母さんたちの立場になって、
温かく接していきたい」と今後の
目標を語る安藤さん。苦手な点を
補い合い、互いに助け合えるチー
ムの中で、充実した毎日を過ごし



院長
さとう たくみ
佐藤 琢史さん

患者さんに安心していただける 地域の居場所になりたい

私たちのクリニックは、患者さんとその
ご家族に安心と信頼を届けることを大切
にし、明るくアットホームな雰囲気の中で、
一人ひとりの悩みに丁寧に寄り添う診療
を心掛けています。スタッフには、日々の
仕事を通じて自分自身を高め、喜びややり
がい、そして幸せを感じてほしいと願って
います。



小児から成人まで幅広い世代の診療に対応す
る、地域密着型のクリニック。患者とのコミュニ
ケーションを重視し、個々の健康状態や心の悩
みをサポートしている。

20条小児科内科クリニック
帯広市西20条南3丁目29-2
tel.0155-35-8612
<https://20-clinic.com/>



先代院長から受け継ぎ
昨年4月に新たな一歩を踏み出した

ています。「思い切って新しい業種
に挑戦して、ここで働けて本当に
良かったと感じています。この先
きともっとすてきなクリニック
になっていけると思っています」。
子ども時代の苦手意識が、今で
は優しさの源に。患者一人ひとりと
丁寧に向き合い、これからも思
いやりのある接遇を続けていき
ます。



自分を成長させられる 職場環境

当院では、内科・小児科の両面
から幅広い診療を行い、家族みん
なが安心して通える地域密着型の
クリニックを目指しています。医
療事務に求められる役割は多岐に
わたり、受付や問診、電話対応、
会計業務に加え、診察室での補助

して加わり、準備期間を経て、昨
年4月にリニューアル開院の日を
迎えました。「最初は不安もあり
ましたが、研修や先輩方のサポー
トのお陰で、少しずつ仕事に慣れ
てきました」。開院当初からたく
さんの患者が訪れたため、スムー
ズな案内に課題を感じる場面もあ
りましたが、スタッフ同士で声を
掛け合いながら乗り越え、自然と
チームとしての結束が強まってい
きました。